

事例2 交付金を活用した耕作互助システムの構築

青森市 孫内

協定面積 田71ha 協定参加者 45人

- 孫内集落は青森市西南部の山間部に位置し、水田は水系に沿って細長く続いている沢田となっており、生産・生活基盤ともに不利な条件にあり、高齢化も進んでいます。農地の維持管理は沢田であることと、1人当たりの農道、水路の長さがネックとなっており、農地の保全に支障をきたしていました。
- これらの経費が交付金で賄えるのであればと、平成12年度から一部で取り組みが始まり、平成13年度からは参加者が増えて、集落全体をカバーする協定となりました。
交付金は、農道・水路の管理費に使用しているほか、耕作できない農地が発生した場合に備えて積み立てておき、農地の管理費に使用することになっているため、一種の保険のようなものになっており、高齢者も安心して協定に参加しています。
- 現在は広い範囲を数名の役員で管理していますが、今後は農道管理や機械担当等を決め、きめ細やかな活動を実施していきます。



草刈りの後の水田